

歌合部類

九月芝報

九



水無瀬殿戀十五首歌合
題

建仁二年九月廿三夜

五曜文庫

春書

夜

春恋 夏恋 秋恋 冬恋

曉恋 晝恋 霧中恋 山家恋

古川恋 旅泊恋 冥路恋 海色恋

河邊恋 寄雨恋 寄風恋

作者

九子歌藤原親定 後鳥羽院

前大僧正慈圓

後成心女

九大臣良經

權中納言公純

官内心

水無瀬

大苑に教原をよみ
上総介藤原家隆

大を兼權少の藤原家
大を兼權少將藤原家隆

讀師
講師
判者

赤陸御臣
定家朝臣
皇太后宮大夫入道釋阿

南座付猿員追加判詞

一番 去來

左傍

右大臣

こころを乃かふる泪とけぬとたより神はむとけんまじ

右

後成江女

新古 面影乃にける目そやらんるまやじしーの神乃をまよ

大まの言のつらよまよひのさふくり言ぬとついで
とらふにたぬの月やあゝぬまやじしーのこころを
ゆせとほふえんよひんを傳ふとたもぬあ神はむ
とらふまじしーのさふくり言ぬとついで
ゆたふを傍

二番

左傍

親定

月影のやうに乃心のかげの影はむとけんまじ

右

名内記

ともて又藤の枝にまはるる花の影もたはらぬとて
 右のよきこそとて又とてとてとてとてとてとてとて
 子に侍るもとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 りひまうりしてとてとてとてとてとてとてとてとて
 乃とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 せとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

三番

左 お

有家お作

ともてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 右

雅信

人かたきとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 乃とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

回番

左 務

定家お作

ともてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 右

家隆朝臣

うらむとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 乃とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

五番

しんく文字つて記さるる一は海もくもやゆるん

八番

九お

指申物

しんく新乃掃り物もきよし一掃り物もきよし

右

雅經

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

九番 九お

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

九番

九番

九お

新古 しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

右

家隆御后

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

十番

九お

あ大僧

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

右

あ大僧

しんく一人物山乃新しんく一人物山乃新しんく

たぐくことすれはるひもあやしくしるふあしりくまに
ゆるとをたふまよはしきくはきよきしてあつやめはのま
とりの文字つたあしりはゆるよやとてあひの
よめくまやけりくねまきちありよし也

十一番 秋意

左 秋意

こゝやとれぬ宿のなまきり書とあつまき秋の夕夕坊

右 傍 秋意

^{新古} 雲の影流ひきもあつてやとわしつる神にちるる秋乃うり信
たのきくやとれぬ宿のなまきり書とあつまき秋の夕夕坊
あつてやとれぬ宿のなまきり書とあつまき秋の夕夕坊
くはるをたけ宿のなまきり書とあつまき秋の夕夕坊

いそぐにふるにあつる志の勝しきやゆるんとせりし
らんぬよ勝る文よやゆるし也とてあつまき秋の夕夕坊
いそぐにふるにあつる志の勝しきやゆるんとせりし

十二番

左 檀中納言

家の心つらむとてあつる秋のおもひはつらむい物哉

右 傍 檀中納言

こゝも月やあつぬとてあつる秋のおもひはつらむい物哉
あつてやとれぬ宿のなまきり書とあつまき秋の夕夕坊
た藩岳の秋興賦乃あつるよしとてあつまき秋の夕夕坊
よめくまやけりくねまきちありよし也
たあつるあつるやとてあつる信りは勝るあり信也

十三番

右

後成の女

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

右

雅姫

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

十四番

左

左大臣

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

右

あまのついでに

新古

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

十五番

左

宮内

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

右

家隆朝臣

あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに
あまのついでにわたり宿のまゝに

水无味

きりぎりすのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

十九番

左 孫

お大借の

しるしはなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ

右

お借の

きりぎりすのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

たおもひのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

ゆるしたるこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

なほとま乃白くはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

とぬて磨芽とくはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

二十番

左 孫

後成の

新古

通ひく宿乃みらきくはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

右

お家の

床乃霧まのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

た号あつらひなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

枕のまきりりして結をよめとくはなほひさかたのこゝろのこゝろ

きりぎりすのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

廿一番 暁迄

左 孫

家隆の

きりぎりすのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

右

雅臣

きりぎりすのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

たおもひのこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

ゆるしたるこゝろはなほひさかたのこゝろのこゝろのこゝろ

新古

新古

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

二十六番

右勝

右勝

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

右

右勝

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

二十六番 暮迄

右勝

右勝

新續古

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

右

右勝

五葉

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

二十六番

右

右勝

右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...
右に記す如く...

右勝

右勝

水戸藩

あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは

二十八番

右勝

左勝

新吉

あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは

右

左

あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは

二十九番

右勝

左勝

あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは

右

左

あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは

三十番

右

左

あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは
あはれなることばをいふは

右勝

左勝

あはれなることばをいふは

おほしきものなりしは...
左様におきかへし...
さうせん...
そのおほしき...
おほしき...
おほしき...
おほしき...

三十一番 釋中一巻

左

宣家おは

おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...

右様

海陸おは

おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...

おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...

三十二番

左

有家おは

おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...

右様

雅臣

おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...
おほしきものなりしは...

三十三番

左様

有家おは

有家おは

有家おは

君もどきありやとていじ腕をあらはしり目とせしはし

右

左大臣

宇保乃山うづかき一紀なることきふ都の人
左の勢あるり月とせしはしりてと侍るは源
氏物語の基乃えんれあまの思ふはしりし
えんよんは侍り右の勢はしりてと侍るは
るし侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは

三十四番

左侍

信平納言

さし侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは

右

後成の女

さし侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは

左鞆中乃心きたりふ侍るはしりてと侍るは
じと侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは
と侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは
と侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは

三十五番

左侍

お大信女

さし侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは
と侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは

右

左大臣

りりありん様と侍るはしりてと侍るはしりて
と侍るはしりてと侍るはしりてと侍るは
りりありん様と侍るはしりてと侍るはしりて
りりありん様と侍るはしりてと侍るはしりて

三十六番 山家集

右

新巻

あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
たまたまも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
くわのり

四十番

右お

檀中細

あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも

右

まのり

あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも

四十一番 右お

新古

右 孫

親定

續拾

右

右 孫

あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも

三十二番

右お

有末お

あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも

右

家隆朝臣

あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも
あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも

神あはれなるも けしきも けしきも けしきも けしきも けしきも

四十三番

左 お

お大傍

さふらふ神にされ乃あふさふのさふらふ原の秋はあふらふ

右

俊成に女

飛乃あふらふさふらふ秋はあふらふ一人のさふらふさふらふ

たれさふらふさふらふ原乃あふらふ思ひさふらふさふらふ

右飛乃のさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

とさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

四十四番

左

檀中細

海乃さふらふ海乃さふらふさふらふさふらふさふらふ

右 孫

あつらふ

さふらふさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

たさふらふの廣を別してさふらふさふらふさふらふ

か信乃信乃あふらふ信乃信乃あふらふさふらふ乃信乃

とさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

四十五番

左 持

定家為臣

つれさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

右

雅臣

人さふらふさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

た信乃信乃あふらふ信乃信乃あふらふさふらふ乃信乃

乃さふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

てさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

思ひさふらふさふらふさふらふさふらふさふらふ

四十六番 花泊

水元津

十六

九お

儀成は女

那とちち乃とてまじくもたれ昔に金の沖乃とてありた
右 ち内は

いふてあてあてあてあまのふもあの子もあつて月さつらぬ
右あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
左あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
金の沖とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

三十七番

九お

指申細言

いふてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
右あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
定家あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

三十八番

九お

親定

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
右あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
右あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

三十九番

九

あ大信

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
右あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

たたらさるる又あつらんともうあつらん
大浪よあつらんとして月をさるる
くやとくもつらんあつらん

五十番

九孫

九六位

まこととくもつらんあつらん
まこととくもつらんあつらん

右

雅純

あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん

五十一番 開路志

九孫

お大位

あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん

右

檀中細言

あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん

五十二番

九孫

家隆朝臣

あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん

右

雅純

あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん
あつらん神もあつらん

五十三番

左勝

信来の女

あつたれ本條付きまゝあつたれとてそなたがまはりておつたれとて

右

宮内

たつたれ人かたはつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれ乃まはりてつたれ勝もあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて

五十四番

左勝

右大臣

あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて

右

あつたれとて

誰とて又買れとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて

五十五番

左勝

教定

あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて

右

定家朝臣

あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて
あつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとてあつたれとて

五十六番 海老島

左

後成り女

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

右

おのゝとあふり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふり

五十七番

左

おのゝとあふり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

右

おのゝとあふり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

五十八番

左

左大臣

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

右

雅行

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

五十九番

左

おのゝとあふり

おのゝとあふりひらうはねのやとていふ浪のまじり

右

宗家御后

おののこをいへりし海王の神ありしに
たふりくちの孫ありしに

六十番

左

指中細き

破るついでにせよのあはれ我神と
石橋

家修御后

しりしに
左難いこと
はるる

ちん

六十一番

左

たふ

海神の井てあはれ浪の若る

右

宗家御后

名流川をいへりしに
左号をうけりしに
又えんよんをいへりしに
なをいへりしに

六十二番

左

宗家

家だりしに

右

後成の女

あはれしに
左をいへりしに
右をいへりしに

是を乃とて
よはす

六十二番

左 孫

宮内

右 雅經

あはれにたはさむ
とたあまら
にさう

六十四番

左 孫

菅中納言

あはれにたはさむ
右 家隆
あはれにたはさむ

あはれにたはさむ
あはれにたはさむ
あはれにたはさむ
あはれにたはさむ

六十五番

左 孫

新大僧正

あはれにたはさむ
あはれにたはさむ
あはれにたはさむ
あはれにたはさむ

あはれにたはさむ
あはれにたはさむ
あはれにたはさむ
あはれにたはさむ

右

赤陸おは

いふぞんまのさうり乃物とてし秋の暮のあめいさむらふ
 た富士乃山風やいこちのさきさきとらふさきさき
 こをゆるめれたこのは寂蓮の草のまのたうり
 秋風をよくとらふは是あきさきとらふさきさき
 とれきたらし作者のゆるさきさきとらふさきさき
 揚るる

七十二番

左巻

親也

いふぞんまのさうり乃物とてし秋の暮のあめいさむらふ
 た富士乃山風やいこちのさきさきとらふさきさき
 こをゆるめれたこのは寂蓮の草のまのたうり
 秋風をよくとらふは是あきさきとらふさきさき
 とれきたらし作者のゆるさきさきとらふさきさき
 揚るる

右

お大後也

いふぞんまのさうり乃物とてし秋の暮のあめいさむらふ
 た富士乃山風やいこちのさきさきとらふさきさき
 こをゆるめれたこのは寂蓮の草のまのたうり
 秋風をよくとらふは是あきさきとらふさきさき
 とれきたらし作者のゆるさきさきとらふさきさき
 揚るる

七十四番

左

左大后

いふぞんまのさうり乃物とてし秋の暮のあめいさむらふ
 た富士乃山風やいこちのさきさきとらふさきさき
 こをゆるめれたこのは寂蓮の草のまのたうり
 秋風をよくとらふは是あきさきとらふさきさき
 とれきたらし作者のゆるさきさきとらふさきさき
 揚るる

右巻

俊成也女

いふぞんまのさうり乃物とてし秋の暮のあめいさむらふ
 た富士乃山風やいこちのさきさきとらふさきさき
 こをゆるめれたこのは寂蓮の草のまのたうり
 秋風をよくとらふは是あきさきとらふさきさき
 とれきたらし作者のゆるさきさきとらふさきさき
 揚るる

通光の面目もつる

七十五番

九

定家朝臣

三つ入神のあはれをなしてまゝにまゝの形をそく

右孫

雅經

いふはあまのこゝろのこゝろをまゝにまゝの形をそく
をまゝにまゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく
まゝの形をそく

親定

左大臣良経

孫十

員

孫九

員

前大臣信実

孫三

員

権中納言公経

孫五

員

後成女

孫四

員

玄内

孫四

員

大藏卿

孫四

員

左大臣権少将定家

孫五

員

上総介敏原家隆

孫四

員

左大臣権少将雅経

孫五

員

